



学校便り「尚徳」10月号

第493号

鳥取大学附属小学校

平成25年10月18日

<http://www.fuzoku.tottori-u.ac.jp/~fusho/>

題字「尚徳」は、住川英明教授（地域学部）



附属小学校秋季大運動会

副教頭 鈴木 英之

秋晴れのもと、本年度の秋季大運動会も大成功のうちに終わることができました。子どもたちは本当によく頑張っていました。どの子も力いっぱい声を出し、演技していました。感心したのが器具、決勝など係の子どもたちが、午後の炎天下の中、きびきびと動き、用のない時はしゃがむというルールが徹底していたこと、高学年がいないとき、中学年がリーダーシップを執って応援していたことなどです。

本校の運動会が現在のような形になったのは13年くらい前のことです。それまでは、入場行進やラジオ体操、総練習などがあり、夏休み明けから3週間近く、時間をかけて運動会練習をしていました。

それが、教育実習や研究発表大会の日程、前期後期制導入、授業時間数の確保などで、夏休み明け9月第2週の日曜日に運動会をやることになりました。（その当時の始業式は9月1日でした。）実質1週間の練習で運動会をやることになったのです。夏休み前から、組体操などは練習しておくなど工夫しましたが、天候や練習時間が不安でした。

運動会計画案が見直されました。開会式は色別応援団を中心としたエールとともに色別に駆け足でトラック内に集合するオープニングとしました。閉会式は得点だけを競うのではなく、「応援合戦」や演技中の応援のパフォーマンスやマナー・チームワークを競う応援三賞を設定し表彰することで、お互いの頑張りを称え合うエンディングとしました。そして、練習時間が短くなった分を高学年を中心とした子どもたちの自律性や自治性にゆだねようとした

のです。

高学年を中心に応援団を結成し、夏休み中からエールや替え歌、振り付けなどを考えさせました。9月になると休憩時間を返上して替え歌や振り付けを練習し、色別応援練習では、校庭や中庭から聞こえる他の色別班の声に自分たちの班は負けないぞと、どの学年も声を振り絞って練習しました。

応援団長の「〇〇組行くぞ!」「オーッ!」のかけ声とともに、赤組・黄組・緑組が自分たちの場所に一齐に集合すると色別班としての一体感が生まれてきました。

応援団が本気になって動くとともに器具、決勝・記録、招集・出発、放送などの係も真剣に取り組み、どの子も自分の役割や責任を果たそうとしました。

応援団に応援歌づくりや下級生の指導を任せただけで、他の色別班には声でも応援の工夫でも負けたくない気持ちや、5・6年を中心に、応援団が頑張っているから私たちも組体操や係の仕事を目配り・気配りで頑張るぞという自主的な切磋琢磨の精神が育ってきました。そして、現在も「わくわくタイム」や「砂の学校」、「運動会」とよき伝統として続いているのです。

最後になりましたが、学年対抗綱引きや前日準備、朝の準備、後片付けと保体部さんや執行部の皆さん、お手伝いして下さった懇話会員の皆さん大変お世話になりました。保護者の皆さんが快く協力して下さる姿を子どもたちはしっかりと見て学んでいます。本当にありがとうございました。

【小中合同避難訓練(地震)】

地震を想定し、小中合同の避難訓練を昨年に引き続き実施しました。放送終了後、学級ごとに小中の子どもたちが校庭に集合しました。そして校庭での点呼を終え、中学校の住川校長先生に講評をいただきました。その中で「小学生は、ほとんどの児童が静かにきまりよく集合できていた。」ということをおっしゃいました。また、「地震はいつどこで起こるか分かりません。家庭で起こったときのことも家の人

と相談しておきましょう。」ということも言われました。

東日本大震災が、過去のこととならないようにことあるごとに話をし、防災意識を常にもっておきたいものだと思います。

【研究発表大会開催】

毎年行っております研究発表大会を10月26日（土）に開催します。各教科・領域で授業を公開します。県内だけでなく、県外の学校の先生方もたくさん参加して下さる予定です。多くの先生方に子どもたちの生き

生きと学習する姿をご覧いただけるものと思います。

教員の研修の場ですので、保護者の皆様の参観はできませんが、研究会での子どもたちの様子につきましては、本紙にて後日お知らせする予定です。

保護者の皆様には児童の下校等でお世話になります。下校時刻が公開授業の時間によって異なりますので、配布しましたお便りをご確認いただき、ご理解とご協力いただきますようお願いいたします。



